

Local X FORUM

Vol.8



マルシェ



豪雪

吉野敏充デザイン事務所

ユキノチカラプロジェクト協議会



現地型オープンファクトリー



現地型オープンファクトリー

浜野製作所

TSUGI / SOE

「地域の価値を活かした共創」が生むイノベーションの可能性

Featuring 東北オープンファクトリーフォーラム Vol.4

昨年度、近畿経済産業局を中心に、東北・関東・四国局が連携し、「共通目的」を持つコミュニティがイノベーションを起こす事例として、「地域一体型オープンファクトリー」に着目し、地域企業が群となって「オープンイノベーション 2.0」を体現する要件について調査・分析を行ってきました。そのうち、地域の特性・個性を活かした Social Good を生み出すコミュニティを「Local X Lab.」として位置付けています。

今年度においては、既存の業種や商習慣の枠組みにとらわれず、国内地域における「オープンイノベーション 2.0」を加速化させるため、どのような「要素」が「Local X」になりうるのか、各地の実例（ロールモデル）を発掘します。これらを通じて、VUCA 時代における国内の次代産業クラスター政策としての「Local X Lab.」の多様な可能性を明らかにすることを目的に、各地の様々なコミュニティで活躍するキーパーソンの方々による公開討論会を開催します。

開催日時

2024 1.15 MON 14:30 - 17:00

参加無料



会場 新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」多目的ホール
山形県新庄市十日町 6000-1

主催 経済産業省近畿経済産業局 / 東北経済産業局 / 関東経済産業局
後援 新庄市
事務局 株式会社地域計画建築研究所 (アルバック)



各地のコミュニティ・キーパーソンによる事例紹介 (Local X)

14:30



地域への感謝から生まれる自然体のクリエイティブ

吉野敏充デザイン事務所 代表 吉野 敏充氏

山形県新庄市出身。東京デザイン専門学校卒業後、SOFT ON DEMAND、SOD artwoks を経て吉野敏充デザイン事務所を設立。地元産農作物などの販売を行うマーケット『kitokitoMarche』、山形県新庄・最上地域広域情報誌『季刊にゃー』の制作・発行、山形県の工芸品のリデザイン・販路支援プロジェクト『山から福がおりてくる』の運営、新庄の後世に残す食のプロジェクト『新庄いいにゃ風土 / SHINJO ii-nya FOOD』のプロデュースなどを手がける。地元である新庄最上や山形県の「歴史や情報」などの地域資源を活用し、地域の産業をプロデュースするといった、「デザイン事務所」の範疇を超えた数々の取組についてご紹介いただきます。



豪雪を町の力に変える「ユキノチカラ」

ユキノチカラプロジェクト協議会 事務局 / ブランドマネージャー 加藤 紗栄氏

日本デザイン振興会にて国内地域振興事業を担当し、2015年にデザインを活用した地域プロジェクトとして岩手県西和賀町の地域ブランド「ユキノチカラ」を自治体および北上信用金庫と共に立ち上げ。これをきっかけに西和賀町に魅了され移住、2020年にユキノチカラ事務局へ復帰した。冬の活動の妨げとなる「雪」を西和賀町の豊かな食文化や雪遊びなどのアクティビティを生み出す大切な資源としてとらえ直し、地元の事業者や金融機関など複数のステークホルダーと協働して商品開発や魅力発信を行うことで、雇用や人口増加、地域活性化につなげてきた事例をご紹介いただきます。



東京・下町・墨田のオープンファクトリー 事例報告

株式会社浜野製作所 代表取締役 浜野 慶一氏

大学卒業後、都内の精密板金加工メーカーに就職。1993年株式会社浜野製作所代表取締役に就任。都市部の町工場が直面する量産加工の厳しい環境から脱却するため事業構造を見直し、自社の強みを活かした様々なプロジェクトに挑戦。産学官連携としての電気自動車「HOKUSAI」、異業種連携としてアウトオブキッサニアによる工作教室、ベンチャー企業を支援する「Garage Sumida」、墨田区の多彩な町工場の技術や魅力を伝えるオープンファクトリー「スマファ」の実行委員長歴任など、その取り組みは多岐に渡る。「新たな先端都市型のものづくり」として国内外から大きな注目を集める、様々な企業・機関と共創する場づくりについて事例とともにご紹介いただきます。



福井を創造的な産地にする

TSUGI 代表/クリエイティブディレクター / SOE 副理事 新山 直広氏

鯖江市役所勤務を経て2015年にTSUGI LLC.を設立。地域特化型のインタウンデザイナーとして、地域や地場産業のブランディングを行う。産業観光イベント「RENEW」の運営をはじめ、越前鯖江地域の観光まちづくりを行う一般社団法人 SOE の設立や、これからの地域とデザインを探究する LIVE DESIGN School の開校など、近年ではものづくり・まちづくり・ひとづくりといった領域を横断しながら地域の活動に取り組まれている経験から、持続可能な地域・創造的な産地づくりの事例についてご紹介いただきます。

15:50

パネルディスカッション

テーマ

- ① 上手くワークするコミュニティの要件・要素とは
- ② イノベーションを巻き起こすメカニズム など

座長 (ファシリテーター)



青森大学 社会学部 准教授 石井 重成 氏

経営コンサルティング会社を経て、東日本大震災を機に岩手県釜石市へ移住。多様な官民パートナーシップを手掛け、釜石市オープンシティ推進室長として、市の地方創生戦略を統括。2021年4月より青森大学に着任。(一社)地域・人材共創機構代表理事、総務省地域力創造アドバイザー、デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師、環境省地域循環共生圏プラットフォーム事業アドバイザー、福島県奥会津地域共創フェロー等、各地で地域ハズオン支援や人材育成に取り組む。著書に『ローカルキャリア白書 - 未来の働き方はここにある』。

会場

新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」多目的ホール

山形県新庄市十日町 6000-1

JR「新庄駅」より車で約5分



応募方法

以下の情報を記載して、メールにてお申込みください。

記載事項 件名: 1/15 フォーラム申込
氏名、所属・役職、TEL、メールアドレス

MAIL local.x.forum-8@arpak.co.jp

※右記 QR コードを読み込めばメールフォームが開きます▶

※先着順 ※定員 50 名程度



お問い合わせ

事業受託機関: 事務局
株式会社地域計画建築研究所 (略称: アルバック)
京都本社 (担当: 山部・倉見・山口)
京都市下京区四条通柳馬場西入立売中之町 99 番地

TEL 075-221-5132

MAIL local.x.forum-8@arpak.co.jp

実施主体 経済産業省

近畿経済産業局 地域経済部
地域連携推進課 (担当: 津田・古木)
大阪府中央区大手前 1-5-44
TEL 06-6966-6013

東北経済産業局 総務企画部
企画調査課 (担当: 横田・野口)
仙台市青葉区本町 3丁目 3-1
TEL 022-221-4874

関東経済産業局 流通・サービス産業課
地域ブランド展開支援室 (担当: 長澤・伊豆野)
埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 1
さいたま新都心合同庁舎 1 号館
TEL 048-600-0314